

## 自主防災組織の活動への参加

大規模な災害が発生した場合は、行政や防災関係機関の対応には限界があるため、地域住民同士の助け合いによる自主防災活動が、非常に重要になります。東日本大震災において、日ごろから防災訓練等の防災活動を行っていた地域では、発災直後から避難誘導や安否確認を行い、その後の避難所運営もスムーズに行うことができたという事例があります。各地域の自主防災組織が毎年行う防災訓練は、災害時の避難誘導や初期消火、救出救護等を実践的に行うことができる貴重な機会です。また、こうした活動を通して地域に顔見知りを増やすことも、防災・減災において大切です。自主防災組織の活動には、積極的に参加しましょう。

## 避難情報の確認

昨年8月の台風第10号がもたらした大雨で、岩手県岩泉町では、避難情報の意味が正しく伝わらず、適切な避難行動がとられなかったことから、高齢者が亡くなりました。

災害発生時は、自らの判断で避難行動をとることが重要ですが、住民に危険が切迫し、緊急に避難が必要となった場合に、市では防災行政無線等により避難情報を発令します。避難情報の種類に応じて適切な行動をとりましょう。

避難情報の種類	とるべき避難行動
避難準備・高齢者等避難開始	<ul style="list-style-type: none"> <li>いつでも避難ができるよう準備をしましょう。</li> <li>身の危険を感じる人は、避難を開始しましょう。</li> <li>避難に時間を要する人（高齢の方、障害のある方、乳幼児をお連れの方等）は避難を開始しましょう。</li> </ul>
避難勧告	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難場所へ避難をしましょう。</li> <li>地下空間にいる人は、速やかに安全な場所に避難をしましょう。</li> </ul>
避難指示（緊急）	<ul style="list-style-type: none"> <li>まだ避難していない場合は、直ちにその場から避難をしましょう。</li> <li>外出することでかえって命に危険がおよぶような状況では、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。</li> </ul>

## 被災地派遣業務を経験して

～久喜市の職員が見た被災地～

平成28年4月に発生した熊本地震に伴う被災地の復興支援の一環として、市では熊本県宇土市へ平成28年6月から7月までに延べ11人の職員を派遣しました。このほか、平成23年3月に発生した東日本大震災で被害のあった宮城県東松島市に2人の職員を継続して派遣しています。今回、宇土市での派遣業務の経験をお知らせします。

私は平成28年6月に12日間、熊本県宇土市で罹災証明書を交付するための住家等の被害認定調査を行いました。

罹災証明書とは、被災した住家等の被害の程度を証明するもので、損害保険や義援金の請求等に必要となる書類です。遅滞なく交付するために、全国から派遣職員が集まり、一丸となって業務にあたっていました。

現地では、余震や集中豪雨による被害が続き、昼夜を問わず避難警報が流れるなど、心を落ち着かせることはできない状況でした。そのような中でも、被災された方々から「遠くから来てくれてありがとう」と声をかけていただいたことがとても印象に残っています。



今回の派遣は、被害認定調査に限らず、健康医療や福祉分野の被災後の対応等についても改めて考えさせられる機会となりました。また、私の専門である建築分野においても、防災性や耐震性等について学ぶことが多かったと感じています。この経験を今後の久喜市の防災に活かしていきたいと思います。

営繕課施設係 主任 あおと 青砥 よしのり 貴律